



# 佐高 SGH通信 2020

No. 15 (令和2年8月27日発行)

## 第1回 SGH 運営指導委員会報告

令和2(2020)年8月18日(火)に、第1回 SGH 運営指導委員会が開催されました。協議の中において、運営指導委員の先生方からは、「コロナ禍における SGH 事業計画の進め方」や、「ポスト SGH 構想」等について、具体的で示唆に富む数々の御助言を頂きました。大変有意義な協議となりました。

### ■ 委員会出席者

【運営指導委員・リモートでの参加】

- 鈴木典比古 氏 (国際教養大学・学長)
- 池田 伸子 氏 (立教大学・副総長)
- 田尻 信壹 氏 (目白大学・人間学部長)
- 小又 正高 氏 (あしぎん総合研究所・代表取締役社長)

【管理機関事務局・敬称略】

- 吉川 知宏 (県高校教育課指導主事)
- 相馬 学 ( )

【佐野高校】

青柳育夫校長、大嶋浩行 SGH 推進部長等、本校より 10 名

鈴木 典比古 先生



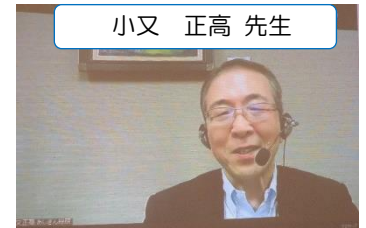
池田 伸子 先生



田尻 信壹 先生



小又 正高 先生



運営指導委員の先生方は、  
リモートで参加頂きました



### ■ 協議(説明・質疑)

- ① 栃木県教育委員会の関係事業について
- ② 昨年度までの本校 SGH 事業について
- ③ 本年度事業計画及び実施状況について
- ④ ポスト SGH 構想について

### ■ 運営指導委員から(敬称略、本年度事業計画)

鈴木>佐野高校の抱える課題は他校でも同じ。

例えば国際教養大学では全員1年間の長期留学が必須。相互交換制度によって全員留学が可能だったが、それができず深刻な状況。台湾、ヴェトナム等、一部の国・地域なら可能か。大学は今なお完全閉鎖でオンライン講義のみ実施。留学生は帰国できない。解決策が、見出せない。

池田>佐野高校の Zoom だけでなくテキストでのコミュニケーションの組み合わせがとても良い。その際口頭だけでなく、長文の文章を書かせる訓練も重視してほしい。マレーシアとのやり取りの中ではファシリテーターとしての教員のサポートがしっかりしていないと、消化不良で終わってしまうことがとても多い。テーマについて事前学習を入念にさせることがポイント。

田尻>オンラインは日本の教育の在り方を劇的に変えた。目白大学ではオンライン授業にしてから退学者が激減、出席率も上昇した。この授業形態をコロナ後もある程度残していきたい。オンラインの長所を活かすため、学校のウェブ環境の整備が課題である。新カリキュラムの在り方については、蓄積型学力から活用できる学力を重視する。インターナショナルバカロレアへの参加も積極的に。

---

小又>あしぎんでも Zoom での研修が増えているが、一方向になりがち。課題をあらかじめ提示し、それに回答してもらうということで、双方向のやりとりになってきた。今の若者は、理解力は高いが課題を発見する力、自ら行動する力が弱い。如何に行動力を伸ばすかが課題。進路指導は、単に有名大学に行けばいいのではなく、生徒の個々の個性・能力を生かす視点での指導をお願いしたい。

---

### ■ 運営指導委員から(敬称略、ポスト SGH 構想について)

鈴木>オンライン教育が学校教育の中へ、当たり前に入ってくるようになる。そのような中で、学校としてどのような特徴を出していくかが求められる。大学・高校の在り方もオンラインで変わっていく。高校は知識の習得に加えて、人間教育を併せて学ぶ場である。

---

池田>「幸せな学校を作ろう」という時の「幸せ」な人たちとは誰のことなのか。自分が幸せになるということは、他者も幸せにならなければならない。ローカルからグローバルへという視点を大切にしながら、自分、地域、国内、世界の SDGs 解決のため、中等教育では世界のどこへいっても通用する汎用的な力を育ててもらいたい。例えば大学より中学・高校のほうが、人とのコミュニケーションの力は培われる。SGH でつながった海外との日常的なコミュニケーションを続けてほしい。

---

田尻>大学入試が目的化して、入学後伸び悩む学生が多い。SGH 事業で培った教科横断的なカリキュラムを、新教育課程の中でもぜひ生かしてほしい。学ぶことに疲れず、大学入学後に大きく伸びる生徒を育ててほしい。短期的展望としては、県教委には今後も佐野高校を県として支援して行ってほしい。長期的には SGH の成果をどう継承していくかが課題。オンライン授業は、佐野高校という枠組みだけで考えるのではなく、佐野・足利広域連携を期待したい。ただオンラインでは人は変えられない。オンラインの学びとともに、対面型授業も充実していかなければならない。

---

小又>若者には、地域をよくするという気持ちをもってもらいたい、という願いがある。魅力あるふるさと、戻ってきたいと思う佐野市を作っていく人材育成を求める。佐野に戻ってくる人が増えてきているということだが、地域に戻ってくる人に、「なぜ戻ってきたのか。」をたずねてみてほしい。他の先生方のおっしゃる探究力・人間力については、私もまったくその通りと思う。ぜひ追求して行ってほしい。

---